

2024年度第1回理事会報告

5月18日（土）16時からオンラインで2024年度の第1回理事会が開催されました。審議の対象となった議案は、（1）2023年度事業報告・決算、（2）2024年度事業計画・予算で、いずれも承認されました。

2023年度の事業は以下のとおりです。

- （1）総会・講演会：10月21日（土）17時から山上会館において開催
- （2）理事会：5月27日（土）10時からオンライン開催
- （3）会報の発行：第50号、第51号を発行
- （4）OBOG懇談会の開催：12月5日、8日、15日に開催。21社が参加
- （5）第7回会長杯ゴルフ大会の開催：9月3日（日）に開催、15名が参加

2023年度決算

前期からの繰越金	2,729,353
収入	
年会費	2,405,000
総会参加費	594,000
利子	20
合計	2,999,020
支出	
会報50号印刷・発送	972,873
会報51号印刷・発送	514,404
総会開催費	512,890
会員システム利用料	508,200
クレジット手数料	232,523
事務委託料	800,000
雑費	9,585
合計	3,550,475
収支	▲551,455
次期繰越金	2,177,898

2024年度予算

前期繰越金	2,177,898
収入	
年会費（1200名）	2,400,000
総会参加費	500,000
利子	20
合計	2,900,000
支出	
会報52号印刷・発送	950,000
会報53号印刷・発送	500,000
総会開催費	500,000
会員システム利用料	500,000
クレジット手数料	230,000
事務委託費	800,000
雑費	10,000
合計	3,490,000
収支	▲590,000
次期繰越金	1,587,898

親
和
会
会
報

白坊隆書

53号

2024. 8



2024年度 講演会・総会・懇親会のお知らせ

2024年10月19日（土）に下記のとおり開催する予定ですのでご参加ください。

講演会 15：30～

場 所：工学部5号館51番教室

講 師：野地博行教授（東京大学工学系研究科応用化学専攻）

テーマ：「細胞のエネルギー変換素子 ATP合成酵素の生物物理化学」

総会・懇親会 17：30～

場 所：山上会館

参加費：6,000円。なお、昭和46年以前の卒業生は3,000円。

なお、当日は全学で東大ホームカミングデーが開催されます。いろいろなイベントが開催されます。詳細は東大ホームページをご確認ください。

卒業50周年同期会開催

74年合成化学科卒業 青木 恭二

卒業50周年の同期会記念行事として、4月20日（土）に総勢19名で母校研究室を往訪した。卒業後に再編された、応用化学科、化学生命工学科、化学システム工学科の4研究室にお邪魔した。

まずは、懐かしい工5号館ロビーに集合し、仲介戴いた親和会事務局長の杉山弘和教授、同会の堀雅文理事及び我ら浦島太郎達を引率戴く杉山・Badre研の院生生田さん、和田さんと挨拶を交わし、全員で記念写真を撮りいざ見学に。

最初は、勝手知ったる5号館の化学生命工学科長岡本研究室へ。岡本先生自ずから講義室同学科の説明を戴く。「有機化学と生命工学の融合で新物質と新機能を創造する」がスローガンで、11の研究室で広範な研究を展開。理科2類出身が最多、女性比率が工学部最大（26%）、3年生からの早期配属制度等ビックリ。続く見学でも、実験室の構造（廊下側がガラス張り、電源天井に配置）、能率的な機器の配置、クライオ電顕でナノレベルまで分子の可視化が可能になるなどの説明を受け、我々の時代とはまさに今昔の感があった。



岡本先生の説明

次いで初見参の工3号館に移動し、回廊型の研究室配置の斬新さに刮目。引率者不在では迷子になりそうだ。方向音痴は要注意。まずは応用化学科長柳田研究室へ。同学科は「新しい化学で変化を楽しむ」という哲学の下、一貫して「創造性」で新規分野を開拓する精神を貫いており、過去に本田健一博士、根岸栄一博士などの偉大な先輩が有名。学科長の柳田先生は九州大から移り5年目で、ナノ材料化学の技術展開とそれを利用する無機・有機ナノ材料設計に焦点を当て、電顕、XRD、半導体などの新規展開を図っている。実験室を説明する院生の滑らかで明晰な説明に新規分野への意欲と研究の深さをひしひしと感じた。

次いで、化学工学システム科へ。同科は従来の化学を越えて、化学&工学&システムの思で課題解決・目的指向型の取組を図るコンセプトとのことで、そのため、産学連携の実例が数多く進んでいる由。学科長の中山研究室では、環境・エネルギーの課題解決に向けた理論化学・計算化学的手法を駆使し分子構造予測、反応シミュレーションを実施。酸化物触媒の表面解析等を行う地下1Fのサーバー室を見学したが、部屋一杯のスパコンが静かに全機フル稼働で、多くの研究室が共用のためよりグレードアップが必要との説明。より早く、より多くのシミュレーションが研究を促進するキーとなっている。

最後に、見学の仲介の労を取って戴いた杉山教授の杉山・Badre研究室に進んだ。医薬品製造のプロセス設計・運転に関する研究がテーマで、低分子医薬品（プロセス選択と経済性）、再生医療（i-PS細胞の無菌充填と緩慢凍結のプロセス設計）等々、社会に密接した課題を多くの企業・研究機

関との共同研究で解決に取り組んでいる由。国外からの留学生も多く、研究内容説明の留学生は日本人より達者な日本語で研究成果を語り、近々ベンチャーを立上げると力強く語った。技術と共に社会との関わりが重要な分野だ。

学期始め、3年生ガイダンス、五月祭前という多忙時期にも関わらず、1時間30分の予定を30分以上オーバーして、老兵にも分かり易く丁寧に説明していただいた。

技術はもの凄い速度で進化しており、それに負けず最先端で成果が要求されるより厳しい時代となっている。本日の見学では、各研究室とも目的意識が高く、具体的な戦略・戦術をもって研究を進めていることが確認でき心強い限りだった。今後とも日本の科学技術の先端を担う気概を持って研究に励むことを期待して、研究室を後にした。



卒業50周年同期会参加者

(事務局からのご連絡)

同期会を開催する場合は親和会事務局までご連絡ください。教室の予約、当日ご協力いただける教員との調整、山上会館の予約等についてお手伝いいたします。

また、同期の名簿等を管理されている場合は是非、親和会までご提供ください。親和会の一番の役割は卒業生情報の管理だと考えています。親和会には、約12,500名の会員が登録されています。一番古い卒業生は明治10年卒業生です。登録会員のうち、死亡登録約3,000名、住所不明登録約3,000名となっています。会員情報は個人情報であり、親和会への提供を懸念する方もいらっしゃると思いますが、取り扱いには十分注意いたしますので、ご安心ください。

会報発送方式の変更について

現在は会報を年2回発行し、5月頃に発行する春号はweb会員システムに住所が登録されている約6500名の生存会員に発送し、9月頃に発行する秋号は過去5年に最低1回年会費をお支払いいただいた会員に送付していました。しかしながら、2023年度決算でも明らかになったとおり、今後も赤字決算が予想されます。会費は毎年約1200名の会員からお支払いいただいているのですが、支出を賄えない状況です。経費削減については今後の大きな課題ではありますが、とりあえずは直近に値上げが確実な郵送費を削減することといたしました。

そのため、来年度2025年度からは、春号は親和会ホームページで公開し、秋号は過去3年に最低1回年会費をお支払いいただいた会員に送付することといたします。従いまして、現在は春号の同封しています会員情報確認書類、会費振込書類等は、来年度からは秋号に同封させていただきます。

ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

年会費納入のお願い

2024年度会費 2,000円

親和会は皆様の年会費で運営しています。年会費のお支払いを御願います。

○郵便局から振込の場合 …………… ゆうちょ銀行振替口座番号：00160-2-29506

○民間銀行からゆうちょ銀行への振込の場合 …… 振替用口座番号：〇一九（ゼロイチキュウ）店
当 座：0029506

加入者名：親和会年会費係（シンワカイネンカイヒカカリ）

○クレジット払いの場合

親和会ホームページのweb会員管理システムからログインし、「会費納付の確認」に入りお支払いください。パスワードがご不明な場合は、事務局までご連絡ください。

親和会事務所

〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学工学部5号館

電話&FAX 03-5841-7400

E-mail: shinna@chem.tu-tokyo.ac.jp

事務局：堀 雅文

なお、常勤ではありませんので、ご連絡はメール、留守電、FAXでお願いします。

編集後記

親和会の活動については下記ホームページでご覧いただけますので、是非、ご確認下さい。 ⇒ <http://shinnakai.com/>

